

水稻の生育状況と当面の対策

基本技術を励行して消費者に「おいしいお米」を届けよう！

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiku/index.html>

第 2 報
千葉県農林水産部
平成30年6月5日

速やかに中干しを実施しましょう！

「ふさおとめ」の幼穂形成期は6月13日頃からと予測

[生育概況]

5月下旬の気温は、平年と比較してやや高い日が続き、4月20日植えの生育が進み、幼穂形成期は早まる見込みです。生育も旺盛で、特に「コシヒカリ」は草丈が長く徒長気味となっています。

4月20日植えの主要3品種は中干しの時期となっており、速やかに実施する必要があります。

表 1 品種別の生育状況（6月1日現在）

品種	植付時期	平年比※			
		葉令の進み	草丈	茎数	葉色
ふさおとめ	4月20日	やや早	長	やや多	やや濃
ふさこがね	4月20日	早	長	多	並
コシヒカリ	4月20日	やや早	長	やや多	やや濃
	5月1日	並	並	並	やや濃
ふさのもち	4月20日	並	やや長	並	やや濃
	5月10日	並	やや長	やや多	やや濃

※平年比は過去10か年（2008～2017年）の平均値との比較。

ただし、ふさのもちは過去8年（2010～2017年）の平均値との比較。

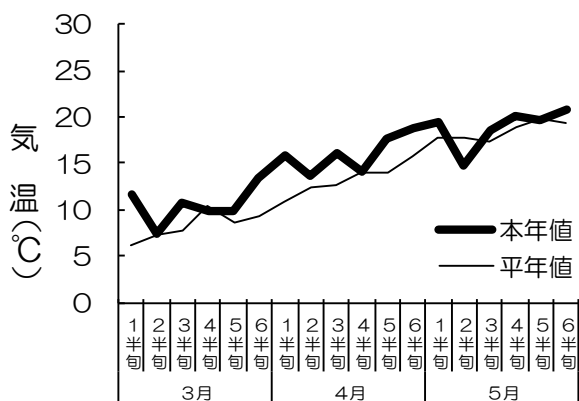


図 1 日平均気温の推移（アメダス、佐倉）

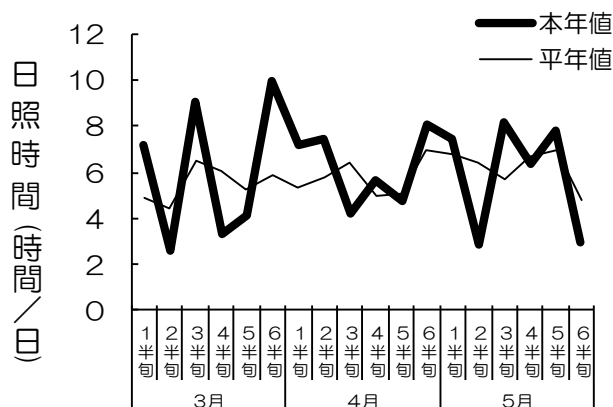


図 2 日照時間の推移（アメダス、佐倉）

[これからの管理のポイント]

■ 中干しの実施

中干し開始目標茎数は表2のとおりです。4月20日植えの平均的な生育のほ場では中干しの時期となっています。速やかに中干しを開始しましょう。また、中干しにムラがあるほ場では溝切りを行うと効果的です。少し土壌が固まった状態で行うと溝切りしやすくなります。

表2 品種別の中干し開始目標茎数

品種	植付時期	砂質	壤質	粘質
ふさおとめ	4月20日	480本/m ² (27本/株)	480本/m ² (27本/株)	440本/m ² (24本/株)
ふさこがね	4月20日	360本/m ² (20本/株)	360本/m ² (20本/株)	360本/m ² (20本/株)
コシヒカリ	4月20日 5月1日	320本/m ² (18本/株)	310本/m ² (17本/株)	300本/m ² (16本/株)

※ () 内は60株/坪植えの時の1株当たり茎数の目安。

※極端な疎植の場合はこの目標茎数に達しないことがある。

■ 幼穂を確認し、入水と穂肥の準備

4月20日植えの「ふさおとめ」は、平年と比較して4日程度早い6月13日頃から幼穂形成期（幼穂長1mm）となる見込みです（表3）。

表3の幼穂形成期予測日を目安に幼穂の観察を行います。幼穂が確認できたら速やかに入水し、適期に穂肥を施用しましょう。「ふさおとめ」は穂肥が遅れると玄米中のタンパク含量が増加し、食味の低下を招くので、穂肥は幼穂形成期（出穂前25日）～出穂前18日（幼穂長が1mm～10mm）に施用しましょう。施肥量は、砂質土や壤質土では窒素と加里を10a当たり成分量で各3kg、房総南部の粘質土では1～2kgが目安です。

表3 品種別の幼穂形成期の予測日

品種	植付時期	幼穂形成期予測日（月日）			
		県北 (成田市)	九十九里 (茂原市)	内湾 (千葉市)	県南 (館山市)
ふさおとめ	4月20日	6月16日～	6月13日～	6月13日～	6月13日～
ふさこがね	4月20日	6月17日～	6月15日～	6月14日～	6月14日～

■ 飼料用米の穂肥と防除の実施（多収品種の管理のポイント）

多収品種（専用品種）で多収を実現するためには、収穫時まで肥効を継続させ、葉色を濃く推移させることが基本です。

穂肥は、出穂前30～20日に行います。5月15日頃に植付けた「アキヒカリ」のほ場では6月下旬頃から、「夢あおば」のほ場では7月上旬頃からはなります。ただし、最高分げつ期に葉色が低下した場合は減収するので、すぐに窒素を追肥します。追肥の目安は、窒素を10a当たり3kgとし、単肥を利用するなどコスト低減を心がけましょう。

なお、飼料用米でもカメムシ類をはじめとした病害虫防除は適切に実施しましょう。

次回の「水稻の生育状況と当面の対策」は、6月19日に発行予定です。